

自然由来土壌汚染・地下水汚染情報

【地下水汚染】

- ・ 自然由来汚染であることが確定した事案のほか、周辺に人為的汚染源が無く、濃度等から自然由来の可能性があると考えられる事例もプロット。
- ・ 平成14年度以降の地下水質常時監視における概況調査と継続監視調査の結果

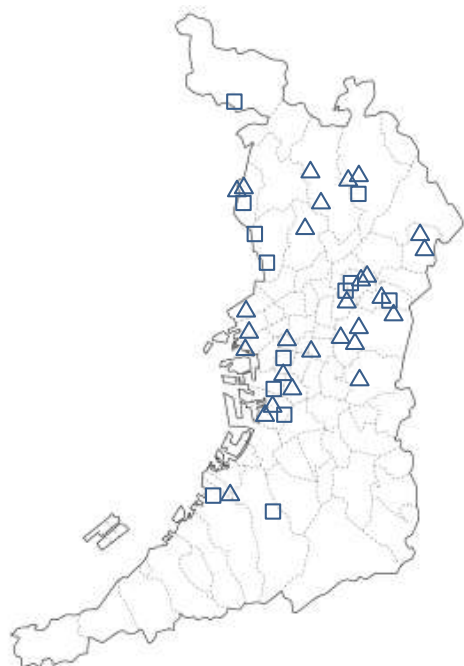


図1 ふっ素 地下水汚染・高濃度

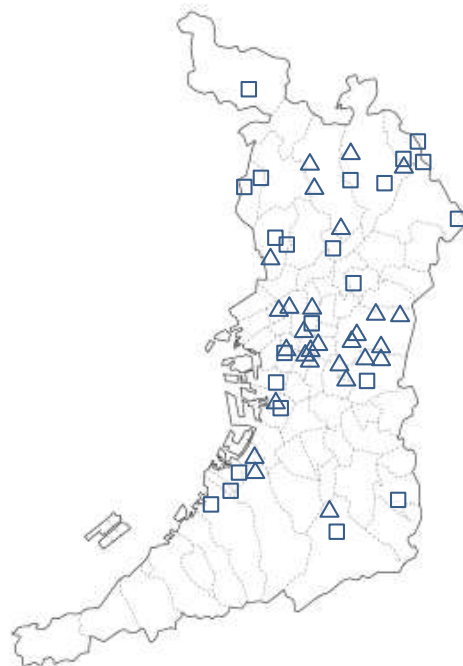


図2 ひ素 地下水汚染・高濃度

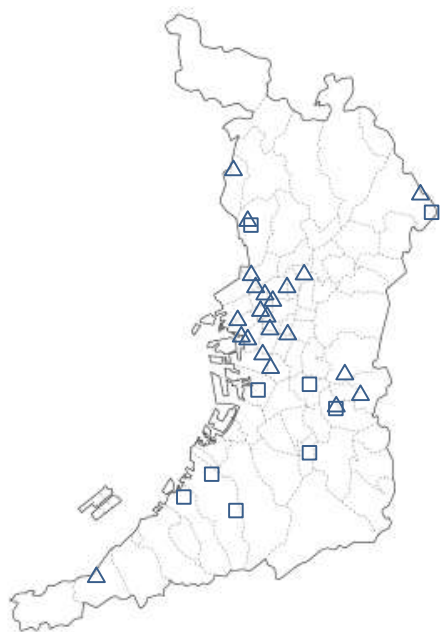


図3 鉛 地下水汚染・高濃度

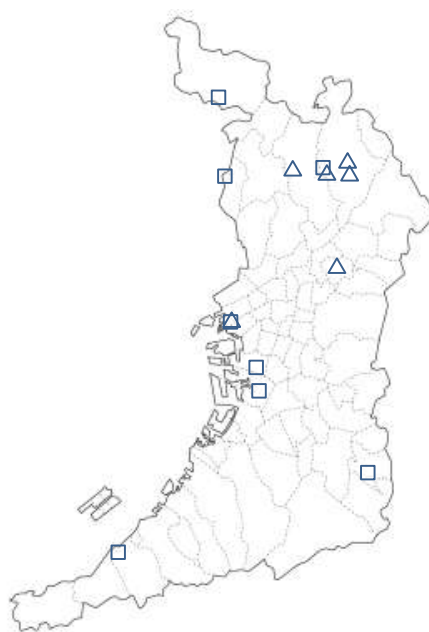


図4 ほう素 地下水汚染・高濃度

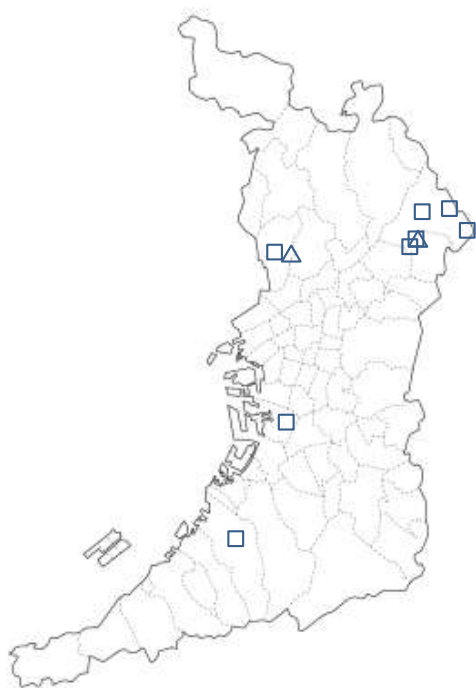


図5 水銀 地下水汚染・高濃度

地下水の図 凡例

- △ 概況調査（平成 14～23 年度）
基準値の 1/2 以上の濃度の地点
- 継続監視調査地点（過去に地下水汚染が判明し、継続的に監視を行っている地点）

【土壌汚染】

平成 16 年度以降の法令に基づく調査結果または自主調査結果

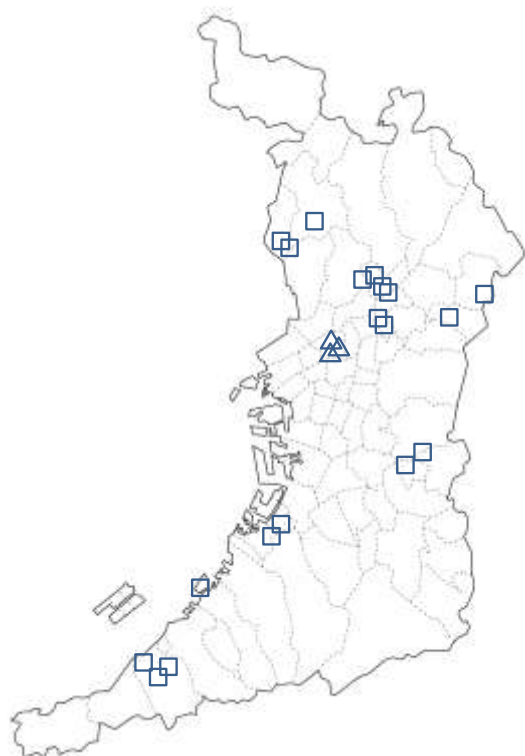


図6 ふっ素 土壌汚染

土壌汚染の図 凡例

- △ 自然地盤
- 埋立材・盛土材

いずれも当該地において人為的な汚染原因となる物質の使用履歴は無く、濃度レベルや分布状況から自然由来汚染またはその可能性があると考えられる事例をプロット。

1. 自然由来地下水汚染の特徴と課題

【特徴】

- ① ふっ素及びヒ素については、大阪市内・門真市・東大阪市・大東市の沖積平野、淀川以北の北摂地域で濃度が高い事例が多い。
- ② 鉛については、大阪市内沖積平野、八尾市・柏原市・羽曳野市付近で濃度が高い事例が多く、その他山地でも散見される。
- ③ ほう素については、大阪市沿岸部、北摂の山地で濃度が高い事例が多い。
- ④ 水銀については生駒山系北部、豊中市内において濃度が高い事例がみられる。

【今後の対応】

- ① 「自然由来」及び「自然由来の可能性のある」汚染について情報を集積する。
- ② 地下水汚染状況の情報を公開して常時更新し、自然由来の地下水汚染または自然由来の可能性のある地下水汚染が高い頻度で見られる地域において地下水の飲用利用を行う際の参考情報としてもらう。

2. 自然由来土壌汚染の特徴と課題

【特徴】

- ① 盛土における基準超過事例が多く、地質的に同質の状態で広く分布しているかどうかは不明
- ② 利用履歴が確認されていないにもかかわらず盛土で超過する事例が多いが、盛土の汚染原因が、盛土搬出元の土地における人為的汚染か自然由来汚染かについては判然としない。
- ③ 自然地盤において判明した汚染については、当該地層の連続性及び同質性について判然としない場合が多い。

【今後の対応】

- ① 継続的に自然由来の土壌汚染の事例を集積する。
- ② 自然地盤において検出された場合に、該当地層の分布状況について情報収集する。
- ③ 自然地盤において検出された場合に、該当地層において土壌汚染のおそれが高いかどうかといった性状に関する情報を収集する。